

教育学部生による小学校・中学校の歴史学習における 長崎歴史文化博物館見学用ワークシートの作成の 2006年度の試みについて

堀井健一（長崎大学教育学部）

はじめに

2005年11月3日（木）に長崎歴史文化博物館が開館した。この施設が小学校・中学校・高等学校における歴史学習において利用する価値の高いものであることは誰もが認めることであろう。

筆者は、自身が勤務先で担当する歴史学研究の講義の中で受講生に対して長崎歴史文化博物館の見学を企画し、見学後に小学生または中学生向けの見学用ワークシートの作成を行なうよう指導した。受講生は、勤務先の学校教育教員養成課程の初等教育コースおよび中学校教育コース社会選修の学生である。そこで、上記のとおり、受講生には小学生または中学生向けの見学用ワークシートを作成させることにした。学生による見学は2006年5月20日の午前中の約2時間半を当てたが、その中には初めに当該博物館研究員による講座室での博物館についての説明と館内巡回の案内が含まれる。当日の見学学生数は22名であり欠席者1名を数えたが、その後の作成ワークシートの提出者は22名であり未提出者1名が出た。

小学生または中学生の歴史の学習において長崎歴史文化博物館を利用することは有意義であると思われる。さらに、その利用の際に学習用ワークシートがあれば、博物館内の多種多様な展示物の中で効率的かつ効果的に歴史学習を行なうことができよう。今回の上記のようなワークシート作成課題の試みについてはすでに2005年度に実施し、その内容については本誌の第5号の中の拙稿で報告を行なっている⁽¹⁾。

本稿では、この度の学生による小学校・中学校の歴史学習における長崎歴史文化博物館見学用ワークシートの作成の試みについて、課題提出時に学生によって回答してもらったアンケートの結果を通して学生が当該の博物館の何に注目してどのようにワークシートを作成したかを分析するとともに、若干、提出されたワークシートの作成状況を分析したい。

ところで、学習指導要領における博物館の利用の意義については拙稿を参照することを願う⁽²⁾。本稿では、第1章の中で学生が長崎歴史文化博物館の展示物のうち何に注目したかをアンケート結果の分析を通じて明らかにする。第2章の中では学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物をアンケート結果の分析を通じて明らかにする。第3章の中では学生が設定した主題について考察する。第4章の中では学生による作成ワークシートの内容について、若干、批評する。第5章の中ではアンケート結果に基づいて今回のワークシート作成の課題がいかに学生の教育

技術の向上に寄与したかを探るつもりである。そして、以上の試みを本稿の中で報告することによって、筆者が勤務先で行なっている教員養成のあり方について広くご意見を賜りたいと願っている。

第1章 学生が関心を持った博物館の展示物について

今回の学習ワークシート作成の課題では、前回に引き続き、アンケート調査を行なった。アンケートの設問は、「(a) あなたが一番関心を持った展示物は何ですか?」、「(b) 児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物は何ですか?」、「(c) ワークシートを作成する時に一番工夫をしたところはどのようなところですか?」、「(d) ワークシートの題名はどのような理由から付けましたか?」、「(e) 博物館の見学およびワークシート作成について感想を述べて下さい。」の5つである。前回のアンケート調査と異なる点は、学習ワークシートの作成の際に作成者である学生に自主的に自身のワークシートの主題を選ばせたことから、「(d) ワークシートの題名はどのような理由から付けましたか?」というアンケートの設問を新たに加えたことである。

本章では上記の「(a) あなたが一番関心を持った展示物は何ですか?」の設問に対するアンケート回答から、ワークシート作成者である学生が関心を持った長崎歴史文化博物館の展示物を分析することを試みる。下記に学生が一番関心を持った展示物としてアンケート用紙に記載したものを挙げる。ただし1人が複数回答している場合がある。なお、挙げるの仕方は、博物館の2つのゾーンの各コーナー別とし、各コーナーの区分けは博物館のリーフレットに記載の分類に従った。

〔歴史文化展示ゾーン〕

〈大航海時代〉

ベハイム地球儀 (1人)

大航海時代 (1人)

南蛮屏風, 南蛮人来朝之図 (3人)

〈朝鮮との交流〉

朝鮮国信使絵巻 (1人)

〈長崎貿易〉

長崎に入ってきた物品, 長崎貿易の輸入品 (2人)

長崎商人シミュレーション, 貿易品の値段を推測するコーナー (2人)

〈中国との交流〉

唐館図絵巻 (3人)

石造アーチ橋の積み木, 眼鏡橋を組み立てるコーナー, 眼鏡橋の模型 (3人)

〈貿易都市長崎〉

寛文長崎図屏風 (1人)

長崎大火 (1人)

貿易都市長崎のまちの情景など（1人）

〈長崎くんち〉

万屋町の鯨の潮吹き衣装（1人）

長崎くんちに使われる傘鉾（1人）

〈オランダとの交流〉

蘭館図絵巻（1人）

商館長、商館医など出島に関係していた人びとに関する展示（1人）

「オランダとの交流」オランダからもたらされた品々（1人）

解体新書（2人）

蘭学関係の書物（1人）

〈日本の近代化と長崎〉

幕末ニュース1854（1人）

〔長崎奉行所ゾーン〕

〈長崎奉行所立山役所〉

長崎奉行所立山役所（1人）

〈キリシタン関連資料〉

キリシタン関連資料（1人）

〈式台〉

お白州の寸劇（1人）

学生が一番関心を持った展示物は以上のとおりである。次に、以上のような、学生が一番関心を持った展示物としてアンケート用紙に記載したものを列挙したものを数値化して整理して表にすると下記のとおりになる。

表1 学生が一番関心を持った展示物

歴史文化展示ゾーン	
大航海時代	5
朝鮮との交流	1
長崎貿易	4
中国との交流	6
貿易都市長崎	3
長崎くんち	2
オランダとの交流	6
日本の近代化と長崎	1
長崎奉行所ゾーン	
長崎奉行所立山役所	1

キリシタン関連資料	1
式台	1

アンケートの回答では1人が複数回答している場合があるので、学生が一番関心を持った展示物の多寡を単純に述べることはできないが、本稿では、前回に引き続き、あえて分析を試みる。学生が一番関心を持った展示物の中では「オランダとの交流」コーナーのものと「中国との交流」コーナーのものを挙げた件数が同数の6件で多いことが分かる。だが、「大航海時代」コーナーのものが5件、「長崎貿易」コーナーのものが4件と続いており、それらと最多のものとの間の差はわずかである。それら4つのコーナーを包括して言えることは、学生たちが貿易都市長崎に関心を持っていることである。この結果には、学生たちにはやはり出島の存在が長崎の歴史のシンボルとして映っていることや彼らが国際理解とその教育に関心があることが背景にあると考えられる。また、前回のアンケート調査と比較して筆者が特に注目したことは、長崎奉行所関係の展示物に関心が集まらなかったことである。前回のワークシート作成の課題では講義者があらかじめ小学校6年生用の主題として「長崎奉行所を知ろう！」というものを選択肢の1つに挙げたが、今回は、ワークシートの主題を作成者である学生自身に考えさせたので、このことが影響して学生たちの間では長崎奉行所関係の展示物に関心が集まらなかったと考えられる。

第2章 学生が児童または生徒に伝えたい博物館の展示物について

本章では上記の「(b) 児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物は何ですか？」の設問に対するアンケート回答から学生が関心を持った長崎歴史文化博物館の展示物を考察したい。下記に、学生が一番関心を持った展示物としてアンケート用紙に記載したものを列挙する。

〔歴史文化展示ゾーン〕

〈大航海時代〉

南蛮屏風（4人）

〈朝鮮との交流〉

朝鮮国使絵巻（1人）

〈長崎貿易〉

長崎に入ってきた物品、貿易品（2人）

長崎商人シミュレーション、長崎商人になって貿易品を入札するもの（2人）

長崎と外国との貿易の様子、貿易に関する展示（2人）

〈中国との交流〉

唐館図絵巻（2人）

唐人屋敷（1人）

〈貿易都市長崎〉
 寛文長崎図屏風（2人）
 昔の家，町人の屋敷（2人）
 長崎の町の様子を示したもの（1人）
 〈長崎くんち〉
 傘鉾（1人）
 諏訪祭礼図屏風，諏訪神事御供町道行之図（2人）
 〈オランダとの交流〉
 蘭館図絵巻（2人）
 蘭学は長崎からはじまった（1人）
 出島について（1人）
 オランダとの交流（2人）
 今にいきる南蛮文化（1人）
 解体新書（1人）

〔長崎奉行所ゾーン〕
 〈ゾーン全体〉
 復元された奉行所，奉行所ゾーン（2人）
 〈キリシタン関連資料〉
 キリシタン関連資料（3人）

学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物としてアンケート用紙に記載したものは以上のおりである。次に，以上のような，学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物としてアンケート用紙に記載したものを数値化して整理して表にすると下記のおりになる。

表2 学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物

歴史文化展示ゾーン	
大航海時代	4
朝鮮との交流	1
長崎貿易	6
中国との交流	3
貿易都市長崎	5
長崎くんち	3
オランダとの交流	8
長崎奉行所ゾーン	
ゾーン全体	2

アンケート回答では1人が複数回答している場合があるので、学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物の多寡を単純に述べることはできないが、本稿では、前回に引き続き、あえて考察を試みる。学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物の中で一番多く挙げられたものは、「オランダとの交流」コーナーのものが8件、次に「長崎貿易」コーナーのもの6件であり、僅差で「貿易都市長崎」コーナーの5件が続く。学生が「児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物」は、前章の中の学生が「一番関心を持った展示物」とは異なって、小学校または中学校の歴史の授業と深く関わる事柄であることが予想される。それゆえ、アンケート回答者の学生たちはかかる重要性を認識して江戸時代における鎖国中の長崎・出島の交易とオランダとの交流を主として意識したと思われる。学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物の回答状況では、前章の学生が一番関心を持った展示物の回答状況と同様、長崎奉行所関係の展示物に関心が集まらなかったことが筆者には注目に値すると思われる。その原因は不明であるが、推測するに、昨今のテレビ番組では以前と比べて時代劇を取り上げる頻度が小さくなってきたので今の学生にとっては江戸時代に関する事柄が縁遠いものに映ったのかもしれない。

第3章 学生が設定した主題について

本章の中では学生が実際に考えて設定した、ワークシートの主題を考察したい。以下にそれを列挙する。

(1) 初等教育コースの学生

長崎歴史文化の旅

長崎の「わからん」ところば調べんね!

長崎の海外交流

長崎貿易について調べてみよう

長崎歴史漫遊記

出島について知ろう!

長崎の街・再発見～長崎歴史文化博物館を見学しよう～

長崎の貿易についてしろう。

長崎町人のくらしと長崎くんち

江戸時代の長崎と文化を知ろう!

江戸時代の長崎貿易について知ろう!

長崎の中のキリシタン

長崎歴史文化博物館へ行こう!!～長崎と外国の関わり～

長崎は世界とつながっていた

日本と諸外国との交流を読みとこう

長崎と中国の交流史

(2) 中学校教育コースの学生

西洋への窓 長崎

江戸時代の長崎での貿易

朝鮮との交流, 昔と今～雨森芳洲に学ぶ～

長崎と外国の交流

長崎と異文化

鎖国時代の長崎

上記の主題の一覧表を概観して気づくことであるが、江戸時代の長崎の海外との交流を主題としたものが目立つ。このことは、第2章の中で述べたように、学生が児童または生徒に一番伝えたいと考えた展示物などと傾向が類似していると言えよう。

第4章 学生による作成ワークシートの内容についての若干の批評

今回の学習ワークシートの作成の課題は、ワークシートの分量としてA4判3-4枚程度とすることを学生に指示した。作成したワークシートの提出日は、博物館見学後の約70日後であった。初等教育コースの学生は、その間に約半月の副免実習があったので、中には満足いくワークシートができなかったという感想を述べる者がいた。

昨年度の諸ワークシートに対する丁寧な批評を当時の附属中学校と附属小学校の教員と共に行ない、その成果を拙稿の中で報告したので⁽³⁾、今回の受講生にはワークシート作成の前にあらかじめその拙稿に目を通しておくように指導した。そうすれば、今回のワークシート作成の試みが前年度のそれよりもワークシート作りの技術の面で優れたものになることが期待できるからである。

だが、その目論見は今回、成功したとは言えない。その理由は、事務作業の手違いから、拙稿を掲載した本誌の前号が勤務先の大学の附属図書館の中の学内出版物のコーナーに陳列されていないことに課題提出締切りの前に筆者が気づき、その後、再度、陳列を依頼したものの、課題提出締切り日まであまり日にちがなかったからである。

例えば、拙稿の中で「館内写真撮影禁止のため写真掲載は無理があるが、図示による工夫がもっと欲しい。」という批評が行なわれ、ワークシートが過度に文章だけに偏らないように図を挿入して児童・生徒の興味や関心を引きつけるように工夫すべきであることを示唆したが、今回の課題の成果を筆者が点検したところ、図示の箇所が皆無のワークシートが22作品中11を数えた。回答欄の周囲の囲み線の描画やワープロソフト自体が具備した画像の使用などのワープロソフトの利用上の技術面では工夫が見られたものの、前述の図示による工夫と呼べるものを含まない作品が半数を占めたのである。今回の課題の場合、特にこの点に筆者は批評者として物

足りなさを感じた。

他方、拙稿の中では「初歩的なことであるが訪問日や氏名などの記入欄を設けること」が必要である旨を指摘したが、この指摘をあらかじめ知り得たかどうかは分からないけれども、今回の作品群の中では博物館見学の準備物、グループのメンバーの氏名の記入欄、見学中のルール4点、ワークシートの使用の仕方の説明書きを備えた力作が1点あった。それらの中でも見学のルールの1つとして「ガラスに『べたべた』触らないようにしよう。ガラスが汚れて展示物が見えにくくなるよ。」と注意書きがあることに筆者は批評者として感心した。

学生の作品に対する批評は、今回、以上の内容に止めておくことにしたい。筆者の最初の構想においては、昨年度と同様に、勤務先の附属学校の複数の教諭と共同で行なうつもりであった。だが、今回は、事情により、それを断念したしだいである⁽⁴⁾。

なお、本論の末尾にワークシートの作成の諸例を写真で示しておく。

第5章 受講生が認識したワークシート作成課題の効果

本章の中では今回のワークシート作成の課題がいかに学生の教育技術の向上に寄与したかをアンケート結果に基づいて探る。

以下にアンケートの設問の中の「(e)博物館の見学およびワークシート作成について感想を述べて下さい。」に対して得られた回答の中から、ワークシート作成の課題が学生の教育技術の向上に寄与したことを直接示唆してくれると考えられる記述を拾い上げて一覧にする。

- ・授業は教材研究10のうち1を教える（用いる）ということを実感した。ワークシートを作成するためにたくさんの情報を集めたが、その中から選びぬいて「何が重要か」「何を伝え（教え）たいのか」を表すことができたように思う。
- ・実習の時に学んだことが「10を調べて1を教える」ということでした。今回は、まさに、調べることがいかに必要かということのを再認識できる課題でした。
- ・小学生を対象とするワークシート作りにこんなにも気を遣うとは思わなかった。どこまで深く歴史を取り扱ってよいものか悩み、完成したものは決して満足できるものではないが、よい経験になった。
- ・ワークシートは社会科において学習を深めるのに重要である。今回、それを作成する練習ができ、実際に教職に就いたときにも役立つと思う。
- ・小学生の立場に立って、ワークシートをつくるのは、難しかったが、これからのことを考えると、よい経験になった。
- ・児童の事を考えて、さらに主題にそったワークシートを作らなければならなかったもので、大変だったが、この経験は後に生かせるのでよかった。
- ・ワークシートは今まで作ったことがなかったので、戸惑いましたが、今後の教師になるためにとても役立つものと思います。

以上のとおり、22人分のアンケート結果の中から7人分の回答から、今回のワークシート作成の課題が学生の教育技術の向上に寄与したことを示唆してくれると考えられるものが得られた。筆者の勤務先の教員養成学部では、確かに授業の中で学生に模擬授業を行なわせることがあるが、今回の課題のようにより真剣に児童・生徒のために彼らの目線を意識して教材プリントを作成する機会はなかったと推測される。そのゆえに今回のワークシート作成の課題は学生にとっては教材研究のよい機会となったと思われる。

おわりに

今回のワークシート作成の課題に際して回答を得たアンケートの結果において、このワークシート作成の試みが学生にとっては子どもたちの目線を意識した教材作りの練習の機会になったので有意義であったと思われる。

今回は、ワークシート作成に際してその主題の設定段階から学生に自主的に取り組ませるやり方を採用したが、やはり学生たちの関心は長崎歴史文化博物館だけに限ったようである。今後は、長崎歴史文化博物館のみを校外学習の対象とするのではなく他の、博物館の近辺の遺跡、史跡などとも組み合わせた学習ワークシートの作成に学生を取り組ませるやり方を試みたいと考えている。特に、昨年、長崎市が長崎さるく博を催したことによって出島地区の内容が充実してきたと思われるので、教材としてこの史跡の利用も視野に入れたい。

註

(1) 堀井健一、舩田安史、松本和寿「教育学部生による小学校・中学校の歴史学習における長崎歴史文化博物館見学用ワークシートの作成の試みについて」『教育実践総合センター紀要（長崎大学教育学部附属教育実践総合センター）』第5号、2006年、103-115頁。

(2) 前掲誌、104-105頁。

(3) 前掲誌、110-113頁。

(4) 筆者は、今年度は冬季休業期の頃を利用して、昨年度と同様に、附属中学校の社会科担当教諭1名と附属小学校の教諭1名の協力を得て、学生のワークシートの批評を試みることを構想していた。そしてその批評の担当を願う附属中学校の教諭として筆者の構想の中では今年度は田中啓司教諭を想定していたのであるが、その旨を伝える前に当該教諭が11月20日に急逝された。そのために、今回は当初の構想通りに附属学校の諸教諭の協力を仰ぐことは当該学校の残された教諭の仕事の負担増を招くことになることになりかねず、それを避ける必要があると判断して、断念させていただいた。なお、この場を借りて、故田中啓司教諭のご冥福を祈ることを記しておきたい。

図1 ワークシートの例

